

ポストコロナ経済対策特別委員会 総括質疑順序(案)

順序	質疑項目・要旨	委員名
分類1 ウィズコロナにおける経済対策		
1	<p>新たな支援事業の考え方について</p> <p>これまで、様々な支援事業が行われてきたが、現在は、飲食店などへの支援金は止まっている。第8波、第9波と新型コロナウイルス感染症が広がったとき、市独自の支援事業はどのように進めていく考えなのか。</p>	内田 隆英
分類2 産業活性化に向けた支援体制		
2	<p>経済施策の周知について</p> <p>昨年度に引き続き、今年度もアフターコロナを見据えた様々な経済活性化施策が行われている。しかしながら、その支援策を利用したいと考える中小企業や個人事業主、新規事業者から、支援策のプログラムが分かりにくい、知らなかったなどの声を聞くことがある。今後、経済浮揚のためにこれらの施策をフル活用してもらうための、市独自の周知・広報活動はどのようにしていくつもりなのか。</p>	平 たけし
3	<p>経済支援の体制について</p> <p>近年の地元基幹産業の縮小で中小企業が多数を占める長崎市において、アフターコロナに中小企業がさらなる事業拡大を目指す場合に備え、大村市の「産業支援センター」のような専門的な産業支援の外部人材を組織内に組み込み、経済活性化に特化した「課」や「室」を新設する考えはないのか。</p>	平 たけし
4	<p>中小企業等への情報格差のサポートについて</p> <p>中小企業のDX推進の取組については、規模が小さい企業やIT等に詳しくない事業者に対しては、数年に渡るきめ細かな伴走型支援をしていく必要があるが、今後、どのように進めていくのか。</p>	久 八寸志
5	<p>市民目線からの情報格差への対策について</p> <p>情報格差は企業だけではなく、サービスを実際に使う側の市民においても課題である。特に、高齢者・障がい者へ配慮した機器やソフト、そして周知において改善に向けての考えを伺いたい。</p>	久 八寸志
分類3 新産業創出に向けた取組		
6	<p>水産業及び海洋・ものづくり分野の経済成長戦略について</p> <p>長崎大学の「海洋未来イノベーション機構」では、インテリジェンス養殖と言われる洋上風力発電等の再生可能エネルギーを活用した養殖システムなどの研究開発を進めているが、長崎市としても大学と連携協力して取組を進めていくべきではないか。</p>	中村 俊介
7	<p>ウィズコロナ・ポストコロナに対応している長崎のビジネスモデルについて</p> <p>感染リスクを下げ、新しいアイデアや工夫により新事業の展開・新製品・新サービス・デジタル化・地域連携・多様な働き方によって長崎スタイルともいえるビジネスモデルの取組状況と発信の在り方について伺いたい。</p>	久 八寸志